

和歌山の地域資源の活用の実践

和歌山大学 システム工学部
60256098 小島早葵

和歌山未来学副専攻での活動を通して、和歌山の地理的な特徴や産業を知り、魅力に気づくことができた。それら地域資源を起点とする地域課題に目を向け、課題解決に繋がる具体的な活動をチームで実践した活動を、以下に示す。

地域協働
演習

A 和歌山を自分事に

和歌山県すさみ町をターゲットに、エビとカニのミを展示する尖った水族館を地域資源としてとらえ、「水族館での食育」を提案。これまで知らなかつた和歌山の課題について考え、最終提案を実際に水族館届け、フィードバックをいただいた。



すさみ町の「エビとカニの水族館」を舞台に、「食育体験ができる水族館」を提案！

地域協働
演習

B 和歌山を現地から知る わかやま物産展チーム

物産展の開催に向けて、実際に企業を訪問。商品のよさだけではない魅力を知る。



Kinido

ー 5 本指ソックスを製造・販売ー

注目したのは働き方。本社の近くにウェルネスをコンセプトにした憩いの場を作り、靴下屋さんがまちづくりに取り組んでいる様子が面白い！



観音山フルーツガーデン

ーフルーツパーラーによる 6 次産業ー

注目したのは働く人。豪快で懐が深い社長が店頭に立てば、商品がみるみる売れていく様子を見た。どの社員さんも、自社への愛が深かった！

地域協働
演習

C 和歌山を人に伝える わかやま物産展チーム

和歌山城のイベントと、校内で開催した物産展。学生に和歌山企業の魅力を伝えることを目標に、累計 638 点の商品を販売、830 名が来場した。当初の目標を達成し、企業様から「継続してもらいたい」などのフィードバックをいただいた。

実施結果（計6日）

販売数 638 点

来場数 830名

売上 24万円



地域協働
演習

adv. 和歌山を俯瞰し、考察する

大阪の社会事業に取り組む企業へのインターンを通して、広くソーシャルビジネスについて学んだ。ビジネスコンペに出場、近畿圏の社会事業家との交流の中で、ユーザの声に耳を傾け、活動を社会に伝えることの重要性を学ぶ。

和歌山県が抱える人口減少や空き家の増加等の地域課題についても、和歌山ならではの地域資源と地域内の密な関係を活用することで、負担が少なく、独自性の高い解決策の提案に繋がると考える。

地方の抱える課題解決策モデルの提案

和歌山ならではの
地域資源



地域内の密接な
関係

私が知った和歌山の魅力マップ

